

梵珠ガイド会通信

2024 - 03 号
2024年 05月18日
自然ふれあい
ボランティアガイド会

■ 内真部館跡自然観察会 & 県民の森望山探索



◆二重堀のある館跡にて説明

青森市東部には、中世の安藤氏が住む館や城跡（山城）が多くあり、これまで3回にわたり尻八城址・油川城跡・湯ノ沢館跡を訪ねました。この度、5月11日、内真部館跡を訪ねました。ガイド会会員と一般参加者、講師2名含む25名が参加。内真部館は奥内から県道2号線を通り、新幹線高架橋下をくぐり右側、標高15mほどの丘陵地に館跡があり、西側は二重堀、南西から東側は切岸（壁を切り崩した）で、特に南側は内真部川が流れる湿地帯になっています。今回も、くらしと歴史・新・発見隊の村田さんと奥谷さんに案内していただきました。

近年、木材が高騰し地元の杉材も伐採され、館跡の木も半数ほど切られ重機の跡も見られました。

内真部館は、外ヶ浜安藤氏の居館とみられ、ここは発掘されていないが、県道2号線を挟んだ内真部④遺跡が発掘されていて、平泉系「手ぐすねかわらけ」が多数出土していることから奥州藤原とのつながりが強かったものと推測されます。歩いている途中、所々にチゴユリの群落が見られ、サルメンエビネも咲いているのを確認しました。

送電線下の陽の当たる場所などにはワラビも生えていて、参加者はちょっとの時間、山菜採りに夢中になりました。昼にはスタート地点の常花志園に戻り午前の観察会は終了しました。

遠いところではむつ市からも参加者があり、「中世の安藤氏の様子が垣間見られワラビの収穫もあり楽しい一時を過ごすことができました」と感想をいただきました。

午後は、眺望山へ移動し昼食後、ガイド会会員の日下さんがリーダーとなり、山頂を目指しました。ここでも倒木が腐りその上にサルメンエビネが咲き始めてまるで箱庭のような雰囲気でした。

残念ながら、この時期、ヒメホテイランはもう花期も終わり見られませんが、4月中・下旬には多くの方々が訪れます。眺望山はヒバの実験林が多く、梵珠山とはちょっと雰囲気が違う森といった感じでした。



◆チゴユリの群落



◆サルメンエビネ



◆眺望山の入り口

■ 中世の梵珠山周辺の歴史 ～梵珠歴史探訪～ 参加者募集！

梵珠山麓の浪岡・五所川原地域には、9世紀から11世紀の古代遺跡が濃密に分布しています。

特に五所川原須恵器窯跡は日本列島北限の窯跡。また国史跡高屋敷館遺跡は堀跡・壕跡を有する平安時代後期の環濠集落です。

日本百低山梵珠山の現地案内の工藤清泰氏が考古学の観点から解説します。

○期日：6月6日（木）10時～15時半

○会場：五所川原市狼野長根 楠美家住宅
（電話：0173-29-3575）

現地：五所川原市前田野目犬走須恵器窯跡
国史跡 高屋敷館遺跡

○講師：元東北中世考古学会会長 工藤清泰氏

○持ち物：昼食・筆記用具・飲み物等

○その他：午前は座学、午後は現地を車で移動します。現地は整地された場所でズック可能

○申込先：平川まで 電話090-1374-0294

*ガイド会員の他、その友人・知人も参加可能です。総勢20人程度を見込む。参加費無料



◆高屋敷館遺跡から梵珠山を望む

■ ブナが芽吹く梵珠の森をガイドと歩く ～春のふれあいデー

◆陸奥湾展望所で一休み



ブナがあっという間に芽吹き、新緑がまばゆい4月27・28日の両日、梵珠の森・春のふれあいデーが開催されました。参加者はボランティアガイドと梵珠山頂を目指しました。途中、登山道脇には、ムラサキヤシオとオオカメノキの花が咲き、赤紫と白の花のコントラストが見事でした。ヒョウノセンカタバミ・キクザキイチゲ・キバナイカリソウ・オオバキスミレ・チゴユリ・ヒトリシズカなど春の花が一斉に咲き誇っていました。

9合目付近には、シロバナスミレサイシンも咲いていてさっそく写真を撮っていました。

山頂ではウグイスがさえずり、ブナの芽吹いたばかりの柔らかい葉を風が揺らし、心地よい登山日和となりました。



◆シロバナスミレサイシン



◆シラネアオイ



◆赤紫と白花の競演

■ ガイド会活動日誌

月 日	活 動 内 容	担当ガイド
4月11日	内真部館跡下見	平川・渋谷
4月14日	少年自然の家でのPR活動	木村
4月27・28日	梵珠の森・春のふれあいデー	芳賀・木村・工藤
5月12日	新緑トレッキング ～ブナ峠を経て梵珠山へ～	講師：芳賀、鈴木・須々田